

増補 戦国史をみる目

日本史・戦国

ふじき ひやし いなば つぐはる
藤木久志著、稲葉継陽解説 ▼文庫判・並製カバー・432頁・定価 一、六五〇円

2024年7月刊行



斬新な戦国時代像を描き、後進に多大な影響を与えた歴史家・藤木久志。その歴史観と学問の精髓を明快に示す論考群を収録した好著に、「戦国安治文書の魅力」を増補した決定版。

【目次】

I 戦国乱世の女

- 一 武家の女性像―戦国大名毛利家の女たち―
- 二 戦国法の女性像
- 三 民衆の女性像―鬼女と鬼がわら―

II 一向一揆をどうみるか

- 一 「市民一揆のシンポジウム」
- 一 わたくしにとつての一向一揆
- 二 一向一揆論

III 村からみた戦国大名

- 一 村からみた戦国大名
- 二 戦国の村と城―大宮の戦国をしのぶ―
- 三 戦国の城と町―戦国城下町論の再検討のために―
- 四 領主の危機管理―領主の存在理由を問う―
- 五 両属論の魅力―「関城町史」通史編によせて―
- 六 境界の世界・両属の世界
―戦国の越後国小川庄をめぐって―

IV 民衆はいつも被害者か

- 一 武装する村
- 二 刀狩りを見る目―いま、なぜ刀狩りか―
- 三 廃刀令からの視点
- 四 民衆はいつも被害者か
- 五 東国惣無事令の初令

V 朝鮮侵略への目

- 一 虜囚の故郷をたずねて―秀吉の朝鮮侵略が残したもの―
 - 二 朝鮮侵略と民衆
 - 三 戦場の奴隷狩りへの目
―山内進『掠奪の法觀念史』によせて―
- あとがき
付録 戦国安治文書の魅力
解説(稲葉継陽)

◆著者・解説者略歴

藤木久志(ふじき ひやし)

一九三三年新潟県に生まれる。一九五六年新潟大学人文学部卒業。一九六三年東北大学大学院文学研究科博士課程修了。立教大学、帝京大学などで教鞭をとる。専門は日本中世史。二〇一九年没。著書は『戦国社会史論』(東京大学出版会)、『豊臣平和令と戦国社会』(東京大学出版会)、『雑兵たちの戦場』(朝日新聞出版)、『刀狩り』(岩波新書)ほか多数。

稲葉継陽(いなば つぐはる)

一九六七年栃木県生まれ。一九九六年立教大学大学院文学研究科博士課程退学。博士(文学)。現在、熊本大学永青文庫研究センター教授。専攻は日本中世史・近世史。著書に『戦国時代の荘園制と村落』、『日本近世社会形成史論』(以上、校倉書房)、『細川忠利』、『近世領国社会形成史論』(以上、吉川弘文館)などがある。

注文書	
(書店印)	
ご担当	様冊
法蔵館 定価 一、六五〇円	
藤木久志著、稲葉継陽解説 増補 戦国史をみる目 【法蔵館文庫】	
ISBN : 978-4-8318-2671-8 C1121	
お名前	住所
お電話	

ご注文はFAX:075-371-0458

法蔵館

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入
TEL 075-343-0458 FAX 075-371-0458
http://www.hozokan.co.jp info@hozokan.co.jp